

## 第5回 札幌開発建設部ダム事業費等監理委員会を開催

札幌開発建設部で現在実施中の夕張スーパーパロダム建設事業及び幾春別川総合開発事業のダム事業について、一層の事業費・工程監理の充実を図るため、「コスト縮減策やその実施状況」、「事業の進め方等」について学識経験者等のご意見を頂く場として「札幌開発建設部ダム事業費等監理委員会」を開催いたしました。

### 記

➤ 開催日時 平成24年8月3日（木）15:30～17:00

➤ 開催場所 札幌開発建設部内会議室

➤ 議 題

#### 1. 夕張スーパーパロダム建設事業

- (1) 事業の実施状況
- (2) 平成25年度 事業実施方針
- (3) 完成に向けた工程監理

#### 2. 幾春別川総合開発事業

- (1) 事業の実施状況
- (2) 平成25年度 事業実施方針
- (3) ダム検証について



### ◆「札幌開発建設部ダム事業費等監理委員会」委員名簿◆

◎委員長（敬称略、五十音順）

名 前	役 職 等
◎泉 典洋 いずみ のりひろ	北海道大学大学院工学研究科 教授
許士 裕恭 きよし ひろやす	独立行政法人土木研究所寒地土木研究所 寒地水圏研究グループ グループ長
向田 直範 むかいだ なおのり	北海学園大学法学部政治学科 教授
山下 弘市 やました ひろいち	元北海道土木技術会 コンクリート研究委員会委員

## ◆議事要旨◆

○各委員からの主な意見は以下のとおり。

### (1) 夕張シューパロダム建設事業

(質問) コスト縮減に関して最近、ダムコンは PC に代わってきているが、PC にすることでコスト縮減になっているのでは。

(回答) ダムコンについては当初から PC で設計を想定しているため、事業費としては折り込み済みである。

(意見) 堤内仮排水路の閉塞を行う際、チップングを行うとの記載があるが、閉塞コンクリートをクーリングすると縮むため、チップングを行っても必ず新旧コンクリートの接触面に隙間ができる。工程が厳しい中、作業数日もかかるので不要と考える。閉塞コンクリートに対する水圧には自重で十分抵抗でき、さらにキーも設けられている。よって、最後に行うグラウチングで隙間を詰めた方が良いと考える。

(質問) コスト縮減の取り組みの中の、流木の一般への無料配布について現在、管理ダムにおいてはどのくらいの需要があるのか。

(回答) 管理ダムには流木の無料配布について一般から問い合わせが来ている状況であり、需要は多い。

(質問) 試験湛水の期間を短縮するために、大夕張ダムの水を有効利用するという部分をもう一度具体的に説明頂きたい。

(回答) シューパロダム総貯水容量 4 億 2 千 7 百万 m<sup>3</sup> のうち、試験湛水を開始するまでに、大夕張ダムに 8 千万 m<sup>3</sup> 分の水を溜めることで少しでも試験湛水の期間を短縮できないか検討している。

(意見) ダム管理移行後に地すべりが発生しないように、地すべり対策はしっかり行って頂きたい。

### (2) 幾春別川総合開発事業

(質問) 将来のライフサイクルコストの縮減として説明のあった取水塔コンクリート前面の高強度コンクリート（埋設型枠）については、型枠のジョイント部の施工が問題となる可能性があるが、どのように施工を実施したのか。

(回答) ジョイント部が弱部とならないよう目地にシーリング材を充填して施工した。

(質問) コスト縮減として説明のあった取水塔前面の高強度コンクリートの施工範囲は、取水塔が冬期間に貯水位変動を受ける範囲とのことだが、取水塔完成直後から転流工として現桂沢ダムの運用が開始されるが、現桂沢ダムの運用に合わせた範囲となっているのか。

(回答) 現桂沢ダム冬期の運用 (EL. 165~187m) は、新桂沢ダム冬期の運用 (EL. 165~193.1m) の範囲に含まれていることから、現桂沢ダムの運用にも対応している。

(以上)